

新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の学習保障 に向けたカリキュラム・マネジメントの取組事例について

【令和2年10月30日：第3弾】

本資料に掲載の事例は、「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性等について（令和2年5月15日文部科学省初等中等教育局長通知）」に基づく実際の取組事例について文部科学省が、各地域や学校から収集した情報をもとにまとめたものです。



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

参 考 : 5月15日通知との関係

	5月15日通知	通知で示された内容
主として教育課程の編成に関わること	2. 子供たちの「学びの保障」のための教育活動について	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程編成の基本的な考え方 (知・徳・体、資質・能力の3つの柱のバランスのとれた育成、指導方法の柔軟な見直し、それを支えるカリキュラム・マネジメントの充実) ○地域や家庭への説明
主として教育課程の実施、評価、改善に関わること	(1) 登校日の設定等による学校での指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○時間割編成の工夫 ○長期休業期間の短縮 ○土曜日の活用 ○学校行事の重点化や準備時間の短縮 ○最終学年を優先した学習活動
	(2) ①次年度以降を見通した教育課程編成	○令和3年度又は令和4年度までの教育課程を見通した検討
	(2) ②学校の授業における学習活動の重点化	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の授業において行う学習活動を、教師と児童生徒、児童生徒相互の関わり合いなど、学校でしか実施できない内容に重点化する。 ○内容の定着が不十分な児童生徒に対しては個別に指導を行う ○感染症対策を講じてもなお感染の可能性が高い学習活動については、各教科等の指導計画を見直す。
主として人的・物的体制の整備に関わること	2 (4) 教育委員会等による支援 3 取組実施に向けた人的・物的体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○設置者による各学校の教育活動に対する支援 ○2に示す方向性に基づく取組を進めていくため、人的・物的体制の整備・活用

G～M小学校

【学習活動の重点化の工夫（感染予防に配慮した協働的な学習の工夫）】

教育課程の編成
(5月15日通知2)➤ **ポイント 感染予防に配慮した学校行事の工夫****G小学校の例****1年生と6年生で楽しむ学校ウォークラリー**

1・6年生のペアで学校中を回りながら、図書室、音楽室、理科室、校長室等のチェックポイントでスタンプを集める活動です。

**どちらにも達成感を…**

- 1年生にとっては学校探検をしながら、学校に親しみがもてるように、6年生にとっては、1年生のお世話をしながら最高学年の自覚がもてるように、どちらにとっても達成感のある活動として工夫。

1学期実現できなかった活躍の場を…

- 1学期はやむを得ず行事が減り、6年生にとって活躍の場が無くなってしまった。最高学年として、6年生が下学年のために頑張っていることを全校にPRし、活躍できる場をつくってあげたいという職員の想い。

Point

- 児童が達成感をもったり活躍したりする場を意図的・計画的に設定

H小学校の例**今こそ、学級でつくる主体的な活動を**

運動会など、1学期の行事がなくなり、今後も全校で集まる行事の実施が難しい。だからこそ、各学級で、小集団でも楽しめる主体的な活動づくりを実施。

お楽しみ会

- 2年生が企画。密を避けてもできる手作りゲーム（ポーリング等）をみんなで楽しむ。

ミニ陸上大会

- 4年生が企画。3年生とも協力して、できる範囲で楽しめる陸上大会を実施。また、6年生が参加する市の陸上大会に向けての壮行会も運営。

I小学校の例**全校で楽しむ集会活動の工夫****委員会主催！ドキドキ集会**

- 高学年として学校に役立つ仕事を考え、子供自ら感染予防に配慮した集会を実施。
- 屋外で、密を避けながら「王様じゃんけん」の開催。先頭は6年生。最後の王様は校長先生！短時間でも、みんなが楽しめる集会を開催。
- 一度に集まることができなくても、短時間を活用し、数回に分けて分散開催を基本にする。

つな がれ 笑顔 心 と 心 で ハイ タ ッ チ

今年ならではのスローガン

- 全校から運動会のスローガンを募集し、実行委員会が決定。「みんなが笑顔になるような運動会にしたい」「今年は手でハイタッチができないけれど、心と心でうれしい気持ちを伝え合いたい」という想いを踏まえて、今年ならではのスローガンが決定。



来校者への対応

- 事前に配付した問診票を提出してもらう。
- 原則市内在住の方のみ参観可能。
- 各テントに消毒液設置。
- 保護者用テントも、例年より多めに配置し、距離を取って参観できるように工夫。
- クーラーを付けた共用スペースを開放。



子供たちへの対応

- スポーツドリンクを2本配付。
(1本は冷やしたもの、もう一本は冷凍のもの)
- 午前中のみ開催。20分の休憩時間を2回設定し、休憩は教室で。
- 熱中症予防の観点から、ハチマキ着用をカラー帽子着用に変更



種目の工夫

- 二人三脚や綱引きなど、密接になる種目は行わない。
- ダンス種目は、フラッグを使用。フラッグがぶつからないように踊ることで、適切な距離を意識させる。
- 手をつなぐ代わりに友達のフラッグの先を持つようにする。



Point

- 学校行事の意義を踏まえて、十分な感染対策を行った上での種目等の工夫を児童と共に考える。
- 開催時間の工夫や観覧場所の工夫、休憩の設定など、来校者の安全・安心にも配慮した取組を行う。
- 感染症及びその対策の在り方について、児童自身が深く学ぶ機会となっている。

◆ 感染予防に配慮した指導の工夫（音楽科）

K中学校の例

- ◆ 歌ったり管楽器を演奏したりする学習活動等の代替として、表現を工夫したり、知識や技能を得たりする学習活動を工夫

表現方法の工夫

- ハミングで歌う
- ボディパーカッションを取り入れる

活動方法の工夫

- 音楽に合わせてリズムを手で打つ
- 楽譜上の音符を指さす
- 旋律の高さやドレミを手で表す（ハンドサイン）
- 体を動かしたり指揮をしたりする



Point

- 学習活動を代替する方法や活動場所を具体的に工夫
- 学校外の学習活動を豊かにするための事前学習を工夫

L小学校の例



- ◆ 学校の授業で行う学習と学校外での学習との配分や関連に配慮

可能な範囲で学校外で行うもの

- 歌う活動
- 管楽器の演奏（リコーダー・鍵盤ハーモニカ）

事前学習の工夫

- 学習する楽器に関する曲の鑑賞
- 学習する楽器の取扱い方法についての指導
- 学校外で学習が進められるような配慮（学習カード、練習メニュー等）

M小学校の例

- ◆ 学校全体で施設の活用について検討

動線や活動場所の工夫

- 教室移動等についての動線を考慮する
- 歌唱や管楽器の演奏時は適宜屋外スペース（屋根付き）で行う。
※ 屋外スペースでの活動については、事前に隣接する施設等へ理解と協力を依頼



〇小学校、P小学校

【学習活動の重点化の工夫（授業外での学習支援の工夫）】



教育課程の編成
(5月15日通知2)

〇小学校の例

◆ 保護者との共通理解の下、授業外での学習のサポートに取り組んでいる

保護者向けのお便りで家庭学習の意図・方針や進め方を予め共有。

【保護者向けのお便り】

家庭学習の意図

児童の学びを保障し、学習目標に到達できるように、下記のとおり家庭学習を計画しました。児童の学びが継続するよう、ご家庭におかれましては、お子様の家庭学習の支援をしていただけますと幸いです。

家庭学習の方針

- ① 原則として、1日あたり2～3つ程度の家庭学習を出します。
 - ② 授業内容を習熟させたり、授業の予習に活かしたりします。
 - ③ 児童が一人でも学習できるように、家庭学習の内容を具体的に示した「家庭学習プリント」を、担任が児童に毎日配付します。
- ※ 家庭学習の進め方については、担任が児童に説明しておきます。

「家庭学習プリント」を配布し、学習をサポート

【家庭学習プリントの様式】（一部改変）

各教科等	学習すること	ふりかえり
〇〇科 (復習 予習)	①教科書P36～39を参考に復習プリントに取り組む ②答えを見て〇付けをする ③間違えた問題を赤で直す。	
〇〇科 (復習 予習)	①・・・ ②・・・	

【感想】

◆わかったことやできるようになったこと、考えたこと、もっとやってみたいことなどがかけるとよいですね。

◎よくできた
○できた
△もうすこし

家の人のサイン

- ① 下校後、「家庭学習プリント」をみながら、家庭で学習を進める。
- ② 学習後、記号で振り返りをする。
- ③ 一日すべての学習が終了したら、文章で感想を記入する。
- ④ 保護者にサインをしてもらう。
- ⑤ 翌日、「家庭学習プリント」と成果物（学習したもの）を、担任に提出する。

※ 感想は、「育成すべき資質・能力の3つの柱」に対応させている。

【取組に際しての学校として考慮した点】

- 週案を有効活用して週単位家庭学習を計画することにより、授業との関連を図ることを目指した。
- 家庭学習の質を単なるドリルではなく、子供たちが考えるものへと変容させ、手順例を含めて示すことにより子供たちの授業外の学びの質を高めることを目指した。
- 全ての教師が作成する既存の週案を活用することで負担軽減が可能となった。特に若手教師については、家庭学習を見据えた授業の展開は、家庭学習の手順を含めて示す中で、その指導力向上を目指した。
- 家庭学習実施の意図を家庭と学校、放課後児童クラブがしっかり共有することで、学校と家庭との協力体制の構築の機会とした。

Point

- 事例は夏期の短縮授業時のものだが、年間を通して、授業内容の習熟や予習等、授業外の学習活動の対象となる箇所を週案を活用して教科横断的に検討できる工夫がみられる。
- 発達の段階に応じて学習計画の立て方や学び方を具体的に示している。
- 最終的には、子供一人一人の自立的な学びを見込んで計画ができるように工夫している。

◆ 授業外での学習を支える自主学習の手引き（まなブック）を作成

Point

○生活習慣と学習習慣の両面にわたって授業外の学習を支えるための手立てを具体的に示している。保護者との共有により保護者の負担を軽減するとともに、一人学びの力を育てている。

「まなブック」の記載内容

学習の準備

手順1 自分の健康の様子を知る。

チェックの「たちつてと」
 たいおんは毎日チェック
 ちかくの人と話すときは マスク
 つたえよう 風邪かも おうちの人や先生に
 て洗いは せっけんで
 とても大切 顔をさわらないこと

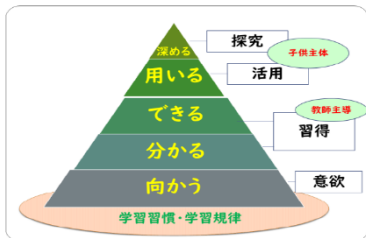
手順2 ふでばこの中をチェックする。

○鉛筆は削っているかな
 ○消しゴムや赤鉛筆など学習に必要なものはそろっているかな

手順3 今日の自主学習の予定を立てる。

○学習する内容と自分が集中できる時間を決めよう。最初は短くても少しずつ長くするといいいね。

保護者の方へ

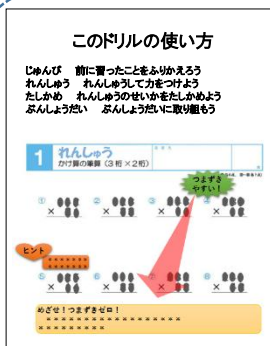


上の図は、子供たちの学びの段階を示したものです。子供たちの学びを創るには、土台となる「学習習慣・学習規律」や第1段階となる「向かう」意欲を育むことが重要です。そこで、この手引きが自宅での子供たちの学習習慣づくりや学習意欲を高める一助になることを願い作成しました。

教科ごとの自主学習の例

ノートに書きだし、整理する（国語）

音読した後で、大切だと思ふポイントを国語ノートに書き出し、整理しましょう。そして、自分なりのまとめ方にチャレンジしましょう。



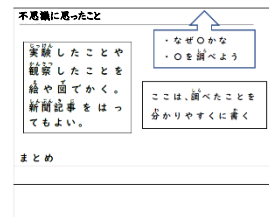
計算ドリルをする場合（算数）

□で囲んだところがこのドリルのやり方です。考え方が他の人が見てもわかるように、解答しましょう。

このドリルの「練習」のページには、「つまづきやすいマーク」がついた問題があります。それについては、ページ下にある「めざせ！つまづきゼロ！」と関係しているので、読みましょう。「ヒントマーク」の内容も読んでおきたいですね。

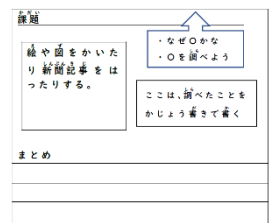
おすすめ学習の仕方（理科）

- 手順1：身のまわりの自然や科学で不思議に思うことを見つける。
- 手順2：見つけたことに合った図鑑、新聞記事、インターネット動画等で調べる。
- 手順3：理科ノート1ページに整理する。



おすすめ学習の仕方（社会）

- 手順1：教科書や地図帳でキーワードを書き出す。
- 手順2：教科書や地図帳の内容のうち、関心のあることを図書資料、新聞記事、インターネット動画等で調べる。
- 手順3：調べたことをノートに1ページ程度でまとめる。





Q市教育委員会の例

◆ 校務支援員・学習指導員の配置・運用の工夫

校務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の全校配置

- 消毒作業、資料印刷等、教職員の業務補助を行い、負担軽減

学習指導員（非常勤講師）の追加配置

- 最終学年（小6、中3）を中心に、授業補助等を実施
- 学習指導員に対し、教務主任から学校の教育課程や指導方針等をレクチャー
- 今後は教員志望の大学生等の活用も視野に



Point

- 外部人材の効果的な活用により、教職員の負担の軽減や、児童生徒の心のケア等を実施。
- 授業の具体的な場面を想定し、感染症予防をしながら学習を進めるための物品を手配。

◆ 児童生徒の心のケア等に向けた、SC・SSWの効果的な活用

専門的な知見を活用

- SCやSSWの知見や専門性に基づく独自のアンケートを作成し、実施。
- アンケートには、観察や対応を要する児童生徒を把握するための基準点を設定。継続して実施することで、児童生徒の状況把握及び適切な支援へとつなげる。
- 児童生徒、保護者との面談はもとより、教職員へのコンサルテーションを通じて、児童生徒の小さな変化を指導計画・授業改善につなぐ。



◆ 特別支援教育の観点から、子供たちへの物的支援の工夫

口の動き、顔の表情が見えるようにするための工夫

- 言語障害や難聴の特別支援学級や通級による指導では、教員のマスク着用により児童生徒が口の動きを認識できなくなるため、アクリルパテーション、フェイスシールド、透明マスク等を購入。



◆ 学校再開支援経費の具体的な用途について

Point

- 学校における感染症対策を徹底しながら学習活動を行うために必要となった備品や消耗品に使用。
- あらかじめ市立学校の校長の合意を得た上で、教育委員会から一括調達を行い、共通に必要なものを配付。
- 教育委員会が一括調達した物品購入経費を差し引いた金額を学校に配分。

全市一括調達したもの



各校個別調達の例

用途	物品名
保健衛生用品等の整備	・ 消毒液、手洗い石鹸、フェイスシールド、マスク、 アクリル板、ビニールカーテン等 ・ 水道蛇口のレバー化、自動水栓化
3密の回避	・ サーキュレーター、扇風機、網戸、校外の会議室の 借上料、教卓(※)、机・椅子(※)、カーテン(※)、 背面ロッカー(※)等 (※は、分割授業を行う際に使用する空き教室用)
学びの保障	・ 会議システム加入料、オンライン教材の利用料、教師用デジタル教材等 ・ 教師用定規、ボール等の教材・教具（児童生徒・教員の接触の機会を軽減するため）
家庭との連絡体制の強化	・ コピー用紙、トナー、封筒、切手等